

子どもも大人も夢中になる

中野で 絵本の世界 広がる

昔読んだ絵本を、ふと思い出すことはありませんか。今、中野では、絵本に親しめる場が広がっています。昨年の福音館書店の移転をきっかけにイベントも増え、まちに新たなにぎわいが生まれています。

今号では、絵本の魅力や、絵本に出会えるスポットを紹介します。

(株)福音館書店とは

1952年に創業した児童書出版社。「おおきなかぶ」や「ぐりとぐら」など、世代を超えて読み継がれる作品を生み出しており、昨年12月に本社を中野へ移転しました。



福音館書店の方に聞く

心に残る絵本のひみつ

代表取締役

社長 佐藤潤一さん

おすすめ

「めっきらもつきら どおん どん」不思議な世界に入り込んでいくワクワク感が魅力。子どもによく読み聞かせていた思い出深い一冊です

とものま編集企画室

室長 石倉知直さん

おすすめ「てぶくる」

雪の中に落ちた手袋に、動物たちが次々と入り込んでいく物語。細部まで描き込まれた絵には発見が多く、読む度に新しい面白さに出会えます

宣伝課

課長 池田葵さん

おすすめ「こんとあき」

こんとあきの旅を通して、子どもの気持ちが丁寧に描かれている作品。我が家では、親子三代で楽しんでいます

なぜ、新しい拠点に中野を選んだのですか

佐藤 旧社屋の老朽化が進み移転を検討する中で、社員の通いやすさや働きやすさを軸に考えていました。いくつかの条件やタイミングが重なり、中野を移転先として選ぶことになりました。

池田 実際に働いてみると、都内のどこからでもアクセスしやすく、移動のしやすさは安心感につながっています。原画を扱う社員も多く、天候に左右されにくい点も日々の仕事の中では大きいですね。

石倉 都会の利便性と生活感のある風景が共存する、とてもバランスの良いまちですね。同僚からも「働きやすい」という声が多くあります。

絵本づくりで大切にしてきたことは

石倉 子どもたちが心から楽しめるものを届けることです。編集者は最初の読者として作品に向き合い、作家の方々と本を楽しむ子どもたちの両方を見ながら最善の着地点を見出していきます。編集者は先輩たちから「子どもの心と大人の目を持って」と言われてきました。その両方があるからこそ、長く読み継がれる本をつくることができると考えています。

池田 絵本は人と人の間に時間をつくるコミュニケーションツールの側面もあると考えています。絵本を子どもに読み聞かせできる時間は意外と短いので、親子で絵本を読んで楽しむ時間を大切にしてほしいです。

佐藤 強いメッセージを押し出すのではなく、読み終えた後に何かが残る。すぐ

に答えが出るというよりも、ふとした時に思い出される。そんな余韻を大切にしています。



絵本ならではの魅力とは

池田 同じ絵本でも、読む時の年齢や状況によって見え方が変わる、“余白”の中で想像できることが、絵本の魅力の一つだと思います。

佐藤 動画やアプリなど子どもとの関わり方が多様な中で、絵本は少し違う存在です。ページをめくる手の動きやリ

絵本の魅力って？

物語と絵に包まれる、豊かな没入感

ページをめくるひとときの中で、日常を離れ、物語の世界にぐっと入り込めます。絵と言葉が重なり、心を優しく整えてくれます

共通の体験が人と人とのつながりを生む

読み聞かせを通して、絵本の世界を共にする時間はかけがえないもの。体験を共有することで、信頼や愛着も生まれます

余白が生む、一人ひとりの物語

言葉をあえて絞ることで、絵や余白に意味が生まれます。受け取り方がそれぞれに広がるのも魅力です

読む度に記憶がよみがえる

子どもの頃の記憶と重なり、大人になって新たな気づきが生まれるなど、一冊の本で何度でも違った楽しみ方ができます



こどものとも70周年記念展 「こどものとも歩み」を開催

全844点の歴代表紙展示や「おおきなかぶ」複製原画を展示します。

日時 8月4日(火)~31日(月) 午前8時30分~午後5時

☆初日は午後1時から

会場 区役所1階

☆当日直接会場へ

初開催 社内見学会に参加しませんか

絵本がたくさん並ぶ「本の廊下」見学や、絵本づくりの裏側を紹介します。

☆各回抽選で10組

対象 区内在住・在勤・在学の方

日時 8月21日(金)午後1時から、3時から ☆いずれも1時間30分程度

会場 福音館書店(本町2-46-1)

7月31日までにこちらから申し込みを▶



これから、どんな場をつくりたいですか

池田 懐かしい一冊に出会ったり、新しい本に興味を持ったりできる場を大切にしたいと考えています。今後は、区や図書館と連携し、イベントなどを通じて、絵本に触れる機会を広げていきたいです。

佐藤 絵本は、結果を求めず、ただページをめくる時間に意味があります。日々の中でひと息つく時間として、絵本を開いていただけたらうれしいです。

次のページで、絵本に出会えるスポットを紹介します



©Akiko Hayashi